

会 師 医 市 牧 小 苦
師 医

高柳 直己

アトピー性皮膚炎 除去食で発育障害

アトピー性皮膚炎に対する食事制限療法がブームになっている。しかし、そうした陰で乳幼児や母親がげっそりとやせ、ノイローゼ気味になる例まで現れている。

小児の湿疹（しん）は、特にめずらしい病気ではない。発症の原因はいろいろ考えられているが、根本的な治療法はわかっていない。食物アレルギーがど

根本的な治療法は不明

の程度関与しているかは、小児科医のなかでも大きく意見が分かれている。診断基準は医者によってかなり幅がある。ある病院ではアトピーの診断を受けても、他の病院では否定されることもある。

もちろん、アトピーの患者のなかで食事が原因の例もよく経験する。卵アレルギーは乳児では割と多いもので、卵を食べた

後に発疹が出、血液検査で卵のアレルギー反応が強くて、そのような子は卵をしばらく止めさせるだけで、皮膚症状が改善する乳児は時々みられる。

しかし、最近、発疹の outf、部位だけで卵、牛乳、大豆、糖分、油などを止めさせてしまう一部の医師がいて、小児科医のなかで大きな問題になってきている。

先日、重症のアトピー性皮膚炎の乳児が入院した。あるアレルギーの病院でアトピーの原因は卵、牛乳、大豆、米、糖分、油が原因だから食べさせないよう指導されていた。母親は母乳を与えていたので、母子共にそれらの食べ物を食べずに三カ月過ぎしたが、いっこうに良くならず受診された。児は治療後三カ月体重がまったく増えておら

ず、母親の体重も十キ減少していた。

入院後、厳しい食事制限をただちに中止させ、皮膚科の医師と協力しながら、数回の入浴によるスキンケアと副作用の少ない軟膏（こう）による、極めて基本的な治療で症状はまもなく改善した。体重も標準以上に回復し、母親の体重も四キ増え、なによりも食事の制限が緩和されたために表情が明るくなった。

行き過ぎた制限食は、子供の発育障害を引き起こすばかりでなく、子供の豊かな食生活をいたずらに破壊し、将来の社会生活に大きな影を落とすことに注意しなければならない。

「アトピーの原因は食べ物だ」という安易な説明は、子供の健康に熱心な母親には受け入れやすいが、そうした「過剰診断」が子供たちや母親の不幸を引き起こしている例が増えている事を警告したい。